

2010年度より全学で推進している第5次長期計画の下、広報活動の基盤となる広報基本戦略を定め、大学広報機能の強化・充実にむけた施策とブランディングの推進に取り組んでいる。事業3年目となる2012年度には、広報活動の到達点と課題を中間総括し、大学の取り巻く経営環境の変化を踏まえながら改善を図ることとした。

この結果に基づき、2013年度以降の広報基本戦略は、「ブランディングの推進」、「広報基盤整備」、「情報発信強化」を柱に、本学のめざすべきブランドポジション及びコンセプトに基づいた新たな“龍谷ブランド”の確立をめざし、イメージを統一的・継続的に発信するとともに、社会から良好な評価の獲得に努める。併せて、大学として明確な広報目標やテーマ、重点エリアを策定し、これに基づき計画的に広報活動を展開することで、本学の社会的評価や大学イメージの向上と、新たな龍谷ブランドの定着をめざす。

### 1 ブランディングの推進について

本事業は、本学の社会的評価を向上させる取り組みであるため、5長の諸施策とともに、新ブランドのイメージを統一的・継続的に発信し、社会からの本学の改革への期待感を一層高めるとともに、龍谷ブランドの確立を図るため、以下の事業に取り組む。

- ① 新ブランド構築に向け、その原動力となる学内構成員（教職員・在学生）・卒業生への浸透活動を行う。
- ② 学内外へのブランド浸透は、メディアを取り巻く環境変化を考慮し、既存メディアに加えて、ソーシャ

ルメディア等から、最も有効なものを活用し情報発信する。

- ③ 新ブランドデザインを様々な広報物等に導入し、社会において蓄積された 本学のイメージを新たにす。併せて、学内構成員のブランドへの理解・共感を促進する。
- ④ 今後制作する広報物において、新ブランドのイメージを統一するため、指針や模範となるデザインサンプルの開発や、制作指示等を記載したガイドラインを整備し、長期的にブランドイメージを維持できる仕組みを構築する。
- ⑤ ブランド浸透の推進にあたっては、学生および部局横断的な教職員をメンバーとするブランド浸透プロジェクトチームを設置し、多様な意見を取り入れつつ、施策の検討を進め、浸透活動に取り組む。

### 2 広報基盤整備について

#### ○情報収集体制の整備

各部局の取り組みを集約するための年間広報計画に加え、部局へのヒアリングを行うとともに、教員や学生等の活動に関する情報収集も強化し、情報が集約される仕組みを構築する。また、広報責任者・担当者を核に、部局へのヒアリングと報道分析やWebアクセス状況等、広報結果のフィードバックを活性化させ、より効果的な発信に努める。また、学生スタッフを介して、学生の多様な活動を学長室（広報）に集約できるよう学内情報収集活動を強化する。

#### ○PDCAサイクルの確立と教職員の意識醸成

個別案件ごとに当該部局から情報を収集・発信する体制を見直し、学長室（広報）が主体となって、情報の一元化と体系化を進め、計画的な情報発信に向けたインナーコミュニケーションの強化を図る。また、大学広報活動への参画意識向上のため、学内教職員に対して研修会を定期的実施する等、広報マインド醸成に努める。

### 3 情報発信強化について

#### ○認知度の向上等を図るための地域戦略事業の展開

関西圏以外での認知度向上と新たな志願者の掘り起こし等を目的として、2011年度より北陸地域においてパイロット事業を実施した結果、認知度の向上や志願者数が増加する等、一定の効果をえた。この結果を勘案し、2013年度以降は、関西圏以外における重点地域を含めて、学内の複数部局を横断する事業（総務部、入試部、学生部、キャリアセンター、高大連携推進室、学長室など）として、校友会、親和会と共催して実施する。

#### ○マスメディアとの連携

2012年度に引き続き、学長懇談会や各新聞社と本学執行部との懇談を深め、第5次長期計画の取り組み状況や、特色ある教育、研究活動に関する情報を積極的に提供する。このことにより、本学への理解促進を図るとともに、信頼関係の構築やネットワークの拡大に努める。また、学生を対象とした日本経済新聞社との連携講座のみならず、新たな連携を模索、検討し、メディアとの新たな関係構築をめ

ざす。

#### ○広報ツールの見直しと再構築

各広報ツールの広報目的や訴求対象者の嗜好を明確にし、学生広報スタッフが企画・制作を行う在学生向け広報誌「XR（クロス・アール）」は、冊子から電子版に移行した。広報誌「龍谷」は、2012年度に見直しの方向性等の検討を開始しているが、一部電子化にむけて関連部局と引き続き調整を行う。Webサイトは、ブランディング活動に併せて、トップページにおける大学イメージの統一や多言語（英語・中国語）による最新情報の発信を強化した。2013年度はトップページから各ページにアクセスしやすい構造に改善し、留学生を対象とする多言語ページの構築など、Webサイトの充実につなげる。

#### ○ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）

Webサイトに加えて、ソーシャルメディアやスマートフォンの普及等、メディアを取り巻く環境変化を考慮し、ソーシャルメディアの活用についても検討を行い、双方向のコミュニケーションの確立とより効果の高い情報発信をめざす。